

消防職員 特別教育

第 2 1 回から第 2 4 回実火災訓練教育を実施しました

[期 間] 第 2 1 回令和 6 年 1 2 月 1 9 日 (木)
第 2 2 回令和 6 年 1 2 月 2 0 日 (金)
第 2 3 回令和 6 年 1 2 月 2 4 日 (火)
第 2 4 回令和 6 年 1 2 月 2 5 日 (水)

各 1 日間

[会 場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 火災現場における各級指揮者として、消防活動に困難を伴う災害現場において、安全管理に配慮しつつ、適切・効果的な消防戦術をできる。

[教育対象] 警防救助活動に従事する部隊の長又はこれに準ずる、45 歳以下の健康状態が良好である者

[修了者] 25 消防本部(局) 72 名



実火災訓練教育 時間管理表

第1小隊		第2小隊		詳細
8:00~8:20	学生事前準備 入校受付			・学生の動き:屋内訓練場で入校受付⇒個人資機材搬入⇒専科棟ロッカーで活動服・編み上げ靴に着替え※アポロキャップ携行⇒第4教場で健康チェック・体調管理表記載
8:40~8:50	点呼／体調管理			
8:50~9:00	校内服務・入校式リハーサル			・伝達事項・入校式リハーサル
9:00~9:10	入校式			服装:活動服・編み上げ靴・名札着装・アポロ携行
9:10~9:30	訓練説明			・第4教場で座学(訓練の目的・流れ確認) ・防火手袋配布
9:30~9:50	移動／休憩	9:30~9:40	休憩	1小隊 準備体操は屋内訓練場で実施⇒学校教官の指導の下、各訓練を実施 2小隊 座学「火災時の安全管理」
9:50~10:00	準備体操	9:40~10:50	座学	
10:00~10:20	進入退出要領			
10:20~10:40	体調管理			
10:40~11:15	資機材設定要領 及び移動	10:50~11:10	休憩	
11:15~11:45	閉鎖型訓練	11:10~12:20	VR体験	1小隊 学校教官の指示の下、閉鎖型訓練を実施後、体調確認、デブリーフィング、資機材整備を実施後、専科棟1階でシャワーを浴びて昼食へ 2小隊 座学「VR体験」
11:45~12:20	体調確認 デブリーフィング 資機材整備			
12:20~13:20	昼休み			昼食(学生ホール)
13:20~14:30	座学	13:20~13:40	準備体操	1小隊 準備体操は屋内訓練場で実施⇒学校教官の指導の下、各訓練を実施 2小隊 座学「火災時の安全管理」
		13:40~14:00	進入退出要領	
		14:00~14:20	体調管理	
		14:20~14:55	資機材設定要領 及び移動	
14:30~14:50	休憩			
14:50~16:00	VR体験	14:55~15:25	閉鎖型訓練	1小隊 学校教官の指示の下、閉鎖型訓練を実施後、体調確認、デブリーフィング、資機材整備を実施後、専科棟1階でシャワーを浴びて第4教場へ 2小隊 座学「VR体験」
		15:25~16:00	体調確認 デブリーフィング 資機材整備	
16:00~16:25	休憩／資機材整備	16:00~16:25	シャワー／資機材整備	
16:25~16:40	修了式リハーサル			・第4教場で実施(活動服・編み上げ靴・名札着装・アポロ携行)
16:40~16:50	修了式			・第4教場で実施
16:50~17:00	事務連絡			・修了証、通知文、修了感想文を配布 ※修了式終了後も、専科棟のシャワーの利用可能

修了感想文

学生代表



所属 埼玉東部消防組合消防局 氏名 齋藤 高史

【修了しての感想】

本教育修了の所感としては「燃焼コントロールの難しさ」一言に尽きると思います。実火災体験型訓練施設は、環境の整えられた訓練施設ではありますが、着火物の性質や形状、配置や湿度、空気量などの条件により燃焼状況は多様に変化します。反対に注水やドアコントロールにおいて、制御させたり、加速させたりと燃焼をコントロールすることも出来ます。

今回は、燃焼温度が上がらず残念な部分もありましたが、上述のとおり燃焼を遅らせる要因への理解にも繋がり、また奇跡的にも2回目の実施調整をしていただいたことで高温化での防火衣の重要性を再認識することが出来ました。

本訓練の要諦は、「災害現場での受傷事故を未然に回避できる隊員の育成」にあります。火災における基礎知識は勿論のこと、VR体験や実火災体験型訓練施設における経験は、千差万別な現場活動での安全を図るうえでの、明確な指標となります。今回の学びを活かし、更なる安全対策を講じることができるよう邁進していきたいと思えます。

終わりに、徹底した安全管理を図り、無事に事故なく訓練が修了出来ましたのも、学校教官の皆様のおかげです。このような貴重な経験を与えてくださり大変感謝申し上げます。

【後輩へのメッセージ】

ホットトレーニングは、自らの熱に対するストレス等を認識する訓練です。普段、何気ない防火衣の着装訓練も、いざ屋内進入する現場の前ではいつも以上に慎重になります。それは、経験として燃えている状況の熱を感じ、自然と進入前での危険性を判断しているからではないでしょうか。

我々が普段装着している防火衣の性能は日々向上し、進入する屋内建物の気密や断熱性能から、気付いた時には高温化に晒された状況で活動することがあるかもしれません。

本教育においては、それらの火災を段階的に確認できるほか、現場活動では有り得ない、着火から定常燃焼までの温度変化を直に体感できます。サーマルカメラなどが普及するなか、危険を自ら判断できる研ぎ澄まされた感覚を本教育において是非養ってみてください。

そして、過去の殉職された火災事例等も踏まえ、県内から受傷事故等を出さないよう、県下一丸となって尽力していきましょう。

修了感想文



学生代表

所属 蕨市消防本部 氏名 宮原 幸一

【修了しての感想】

本訓練は、火災の発生から拡大、危険な現象の兆候を体感的に確認することができる貴重な機会でした。今まで火災の性状は動画や経験で学ぶことが常でしたが、実火災体験型訓練で火災の性状（温度、煙、炎の挙動等）の変化をリアルタイムで観察することができ、火災の進行に対する理解が深まりました。特に火災が進行するにつれて建物内部の温度がどのように上昇するのか、煙の濃度や色の変化等、所属で配備されている熱画像直視カメラを活用した活動の判断へ直結する内容でした。所属では手つかずの部分であったこともありとても有意義な訓練でした。

【後輩へのメッセージ】

安全に危険な体験ができるこの訓練では、判断力や安全管理能力の向上が図れます。個人的にVR体験は、画像がリアルで屋内進入時の危険を共有できて面白かったです。

本訓練で習得した内容を実用化するには、日常的に危険や安全に対する意識を高く持つことでより充実した内容に進化していくと考えます。この訓練で培ったものを火災現場で発揮し、安全に活躍することを期待します。

修了感想文



学生代表

所属 川口市消防局

氏名 高井真人

【修了しての感想】

今回の実火災訓練教育では、午前中に閉鎖型訓練を体験させていただきました。防火装備の重なる部分はしっかりと重ねて、生地間の空気層を壊さないようにすることで熱傷を受けづらくすること、呼び込み現象を実際に目で確認できたこと、注水による中性帯、サーマルレイヤリングの破壊での視界不良、さらには高温層が循環した状況の体験ができとても貴重な体験となりました。私が今回、実火災訓練教育に参加させて頂いた動機として、これまでの火災現場において、高温環境下での活動経験がなく、今後、指揮者として現場で活動する中で隊員の安全管理、受傷事故に対して不安を感じていましたが今回の経験を隊員への安全管理に活かしていきたいです。

午後の座学では、火災時の安全管理において、「安全管理の3要素」を部隊、組織で各要素を共有することが安全管理へとつながるという部分がとても共感しました。また、「心理的安全性」という言葉を講義で初めて学び、チームの中で誰もが率直な意見、素朴な疑問を言うことができる状態を普段から実践できれば、災害活動時には強固な連帯感、団結力を発揮することができるのだらうと感じました。最後に、VRを体験しましたが、視覚、聴覚から火災の

疑似体験をすることができ、火災件数が減少している現在の状況では、ひとつの訓練手法としてよいツールだと感じました。

【後輩へのメッセージ】

実火災訓練教育は、火災性状変化、注水による煙の変化、防火装備の完全着装、屋内進入時の姿勢の重要性を実際に体験することができる、非常に有意義な訓練だと思います。資料や動画などで、知識は得られますが、実際に体感することに勝るものはないと思います。

今後、受講される方も実火災訓練教育を通じて、災害現場での受傷事故を未然に回避できるようにお互い頑張っていきましょう。

修了感想文



学生代表

所属 草加八潮消防局

氏名 山崎 憲治

【修了しての感想】

閉鎖的な空間で自身に受ける身体的ストレスの大きさ、身をもって体感する訓練となりました。災害現場で活動するために備えておくべき知識の大切さ学びました。

またVRでの災害体験は、実災害が減少傾向にある社会情勢では、初任教育での導入も有効であると感じました。

さらには、安全管理に対する適切な知識、刻々と変化する火災性状への適切な判断と行動、部隊を指揮する上でそれらを身に付けるための一助となる訓練となりました。

【後輩へのメッセージ】

非日常的な場面で活動すること多くある仕事です。その事を改めて心に留めておくことが大切であると感じられる教育訓練でした。

その場に直面した時に対応できるための武器、知識や経験が一つでも多く持っていること、増やすため努力をすることが我々に求められる能力だと思います。

教官達が学生のために事前準備から講義、実訓練と様々なサポートがあっ

て成り立っている教育訓練となります。1日と限られた時間を有意義にする
ように受ける側もしっかりとした心構えを持って望んで下さい。